



© Moving Images Studio Zou-shima 2023

What Should We Have Done?

どうすればよかったか？

2024, 102 min, English subtitles

Director: FUJINO Tomoaki

Cast: Documentary

【ネタバレ注意】

前半のあらすじ

これは言いたくない家族の物語です。

日本の北部の札幌市で暮らす4人の家族の23年間の記録です。

両親（1920年代の生まれ）は医師で筋肉細胞の研究者でした。

両親には娘と息子がいました。

娘は4度目の受験で医学部に合格しました。

1983年、24歳の時に娘に統合失調症の症状が現れました。

その時息子は16歳でした。

母と息子は救急車を呼び、娘は精神科病院に行きましたが、翌日、父は娘を家に連れ戻しました。

以降、姉は精神科を受診しないまま症状は続きました。

以降、母は父に同調し、「娘は完全に健康だ」と繰り返し言いました。

息子（この映像の監督）は彼の両親の判断に疑問を持ち、両親に問い続けました。

息子は2度、娘が精神科を受診できる機会を作ろうとしましたが、両親が反対のため実現しませんでした。

息子は両親の協力が無ければ姉を精神科医に受診させることができないと気づきました。

そして両親二人で娘一人を看ることはできるとわかりました。

1992年、息子は娘の声を初めて録音しました。

そして息子は東京近郊で働くため家を出た。

娘は医学部を卒業したが、医師の資格を得る試験に何度も失敗し、就職もできず、一日中家にいるようになりました。

退職した両親は自宅に研究室を作り、娘と研究を続けた。

娘は突然家から消え、数日後ニューヨークの空港で保護されたことがありました。

息子は2001年から故郷に帰る時に家族の記録を開始し、姉や両親と対話を続けた。

両親は70歳後半になると玄関に鎖と南京錠をかけて姉を閉じ込め始めた。

監督の視点

60年代に両親の論文はネイチャーに紹介されました。

グラスゴーで開かれた国際学会で父がポスター発表をした時に、ノーベル賞受賞者のハクスリー博士が聞きに来て握手をしたことが父には一生の思い出だった。

姉は精神科の医療につながるまでに25年かかりました。

Dates & Venues	<i>NB: Dates may vary</i>
11 February – 20 March Aberystwyth Arts Centre, Aberystwyth	16 February – 2 March Macrobert Arts Centre, Stirling
7 February – 28 March Brewery Arts Cinema, Kendal	6 – 8 February Manchester Film Weekender, Greater Manchester
6 – 12 March Broadway, Nottingham	20 – 26 March Midlands Arts Centre, Birmingham
14 February – 15 March Chapter, Cardiff	9 February – 28 March Phoenix, Leicester
10 February – 23 March Chichester Cinema, Chichester	1 – 31 March Picturehouse @ FACT, Liverpool
1 – 31 March Cinema City Picturehouse, Norwich	5 – 26 March Plymouth Arts Cinema, Plymouth
1 – 31 March City Screen Picturehouse, York	15 February – 29 March QUAD, Derby
23 February – 11 March Depot, Lewes	7 February – 28 March Queen's Film Theatre, Belfast
20 March – 22 March Dundee Contemporary Arts, Dundee	18 – 27 February Riverside Studios, London
7 – 28 March Exeter Phoenix, Exeter	16 February – 26 March Showroom Cinema, Sheffield
12 – 19 March Filmhouse, Edinburgh	8 – 25 February Storyhouse, Chester
7 February – 29 March Firstsite, Colchester	8 February – 15 March The Dukes, Lancaster
12 February – 10 March HOME, Manchester	2 – 26 March The Phoenix Cinema, Kirkwall (Orkney)
8 February – 3 March Hyde Park Picture House, Leeds	10 February – 3 March The Ultimate Picture Palace, Oxford
6 – 15 February Institute of Contemporary Arts (ICA), London	10 February – 30 March Tyneside Cinema, Newcastle upon Tyne
14 February – 28 March Jesus College/ Panorama, Cambridge	16 February – 17 March Warwick Arts Centre, Coventry
6 March – 27 March Leigh Film Factory, Greater Manchester	7 – 17 February Watershed, Bristol

Major Supporter



Sponsors in Kind



Clearspring **Pentel**

Cultural Partner



私の家族は統合失調症を発症した家族に対する対応の失敗の例です。
私の家族で起きたことは今もどこかで起きるかもしれないと思い、公表することにしました。
私は両親を罪に問いたいとは考えていません。
ただ何が起きていたのかを知りたかった。
私は初めからドキュメンタリー制作を意識したわけではありません。
最初は記録を残さないと消えてしまうと考えました。
映像の公開を意識したのは姉が退院した後からです。

日本は外国に比べ、社会や法律が家族に責任を追わせる傾向にあると思います。
日本では 1950 年まで精神障がい者の家族を家に閉じ込めること（私宅監置）が合法でした。
現在でも日本では外国に比べ最初の症状から精神科を受診までに時間がかかる傾向にあります。
精神科病院を受診することに対するスティグマが影響していると精神科医は指摘しています。

この映像を見たある精神科医は私に両親の判断は正しかったと言いました。
その理由は 80 年代の日本の精神科病院に入院させるより、自宅で家族と一緒に暮らした方がよかったからと言いました。
父は私の問いに対し「失敗したとは思っていない」と答えました。
2008 年に姉が入院した時に病院が処方した向精神薬は日本では 1996 年に認可されてきました。
12 年早く姉はその薬を試すチャンスがあったこととなります。
どんなに優秀な人でも間違いはあります。
事実を受けれないと解決にはたどり着きません。

私はこの映像を統合失調症についてのドキュメンタリーとは考えていません。
受け入れがたい事実と直面した時に人がどう反応するかを記録したものだと思っています。

藤野知明

『どうすればよかったか?』監督

Copyright belongs to the Japan Foundation. You may not copy, reproduce, distribute, modify, or distribute any part in any form without permission. Any errata are the responsibility of the Japan Foundation.